

6月23～29日は男女共同参画週間

あなたらしさが、社会のチカラ

アンコンシャス・バイアスで、自分や誰かの“自分らしさ”を抑えつけていませんか？
(無意識の思い込み)

男性のメイクや
肌のお手入れに
つい驚いてしまう

「親が単身赴任中」と
聞くと、父親の方だと
思ってしまう

男性が「お弁当を
作っている」と言うと
感心される

避難訓練では、
男性がリーダーに
なりがち

女の子には、
女の子っぽい服を
着てほしい

こどもが泣いたとき
「男の子なんだから」と
言ったことがある



2面へつづく

区長コラム

「あなたらしさ」を大切に



江東区長
大久保 朋果

私の生まれは昭和46年、「団塊ジュニア」世代です。当時は、出産後働き続ける女性が少なく、育児休業制度もなく保育園も足りない時代。幼稚園教諭として働いていた母は、生後2か月から私を無認可保育園に預け、職場復帰しました。

夫である父も協力的で、保育園の送迎などを担当していたとか。通勤時におんぶひもで私をおんぶする父の姿は珍しかったようで、「若いお嬢さん達にくすくす笑われたのが恥ずかしかった」と思い出話で語っていました。

その後も母は定年まで働き、私はいわゆる「鍵っ子」でした。「こどもがかわいそう」「そんなにまでして働かなくても」と心配されることもあったようですが、私自身は、少し寂しい時もありましたが、女性が働くことを普通のことと思育ちました。

今は、「女性が出産後も働くこと」「男性が育児を担うこと」は当たり前になりましたね。50年経って、みんなの意識や考え方が変化してきたことを感じます。50年前には、「ハラスメント」という言葉もありませんでした。「セクハラ」「パワハラ」「カスハラ」など、誰かが我慢してきたこと、つらい思いをしてきたことを皆が改めて意識し、「我慢することないよ、いやだと言っているよ」という世の中になりました。

私たちは、無意識に、思い込みによって、自分の世界を狭めていることがあるかもしれません。個性や生き方、「あなたらしさ」を大切に、そして周りの人の「その人らしさ」を尊重することができたら、もっと暮らしやすいまちになるかもしれません。

思い込みから離れて、本当の「あなたらしさ」についてみんなで一緒に考えてみませんか？



区公式
LINE ▶



区公式X
(旧Twitter) ▶



区公式
Instagram ▶



YouTube
区公式チャンネル ▶



区HP ▶



「こども」の
ちよと東。すぐ今。
江東区